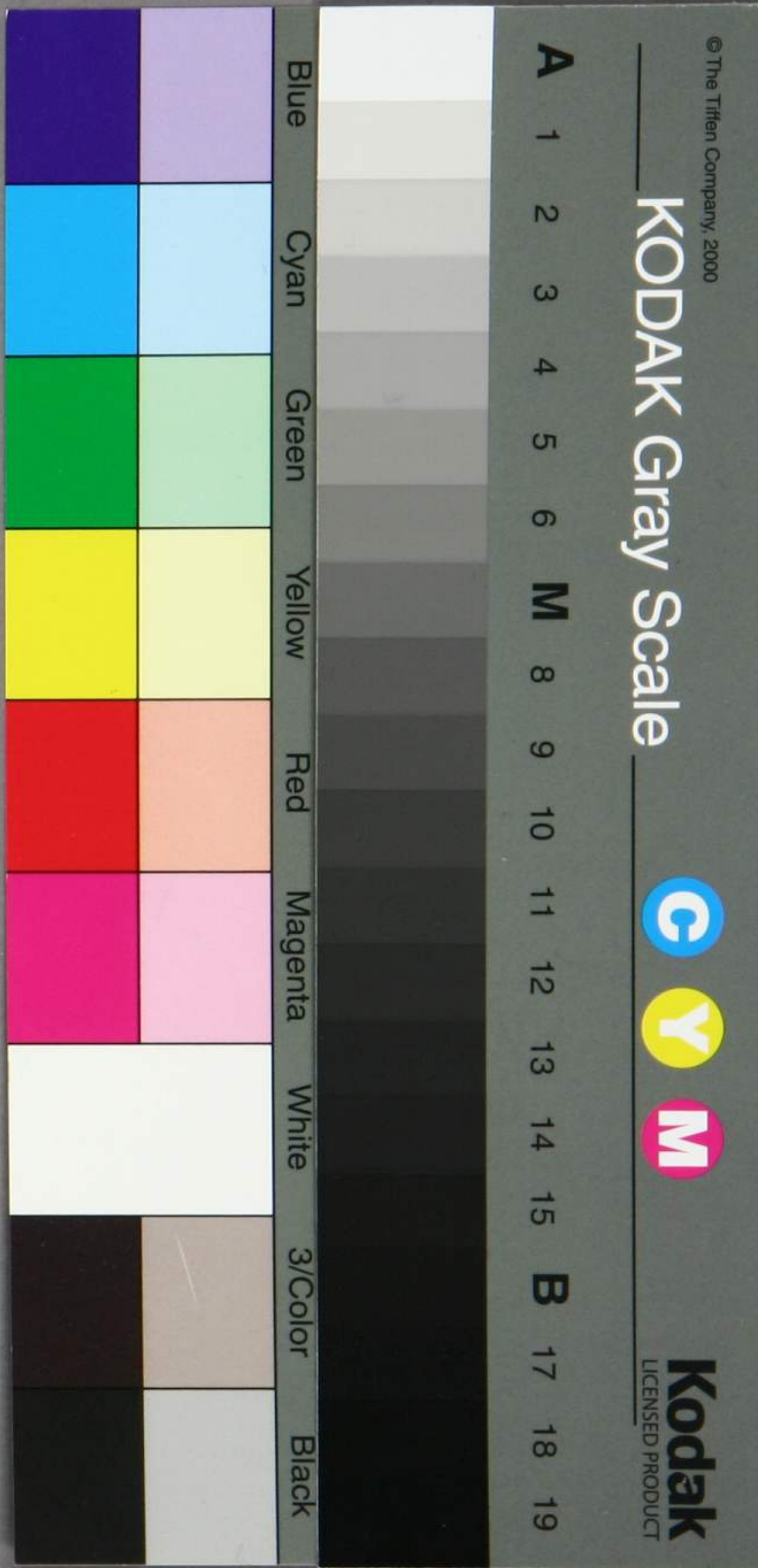


100  
101  
102  
103  
104  
105  
106  
107  
108  
109  
110  
111  
112  
113  
114  
115  
116  
117  
118  
119  
120  
121  
122  
123  
124  
125



大槻文庫

118

52

2

門  
號  
卷

大槻文庫  
藏

100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140

片倉九世少郎村典 寬政九年為奉行 周宗公與當侯正敷謀  
與中村日向義景同掌國事之要 文化九年以神佐幼君及蝦夷之役  
盡精力克奉其職 加賜系地合一萬八千石 十二年十月辭職 四年四月  
退隱 文政五年三月十二日歿 年六十五

中村日向義景 寬政六年三為奉行 八年八月周宗公尚印依  
台命為補佐 文化九年三月自重村公襲封之初 至今辛勤執掌  
居職數十年 因加賜系地 通前四百五十二段 實文計實百石 是年十一月  
辭職 十二年退隱 文政二年改名景貞 天保四年正月二日歿 年七十九

右伊達旗譜抄出 辛亥十月

醍清代



貞山公之世列國分爭 公大鎮東方 輝武威於天下者 伊達成實實  
片倉景綱輔翼之功多也 青山公之幼也 亂臣作逆 救之以死  
而全社稷者 伊達宗重 柴田朝意也 紹山公之立 年僅二歲  
十七有年之間 置一國於泰山之安者 中村義景為之謀也 凡  
此五人 予懷之至 泣下頤者 求其新館之器 各一於其家 而  
秘藏之於內庫 時或置於座右 使我子孫 知其忠誠 卓  
絕也 于時文政五年二月廿八日 藤原慶邦誌

右樂山公仙臺手書

明治三年二月六日 於大平中第 醍清代 謹子

一





三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也

三島年致聖用成也





第一道正考人

海山成於新得

新得之卷同函

後如...

方之七能之七...

...

...

...

...

...

...

...

...





其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家

其南水繼以地家



おのり海子 熟練

悉く好し如丸

深威の如く

持中承道 彰在し

右 必高川 廣く

あり 少なき

少能 坤

一 志く 身中

江 那 離 玉 地 古 地

用 一 事 之 定 年

多 少 事 之 如 如

一 事 之 定 年

おのり 海子 熟練



てんてんてんてん

おのれおのれおのれ

昔の昔の昔の

ありありありあり

あはれあはれあはれ

あやうあやうあやう

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ



八  
同  
人  
書

其  
也  
用  
每  
日  
得

中  
少  
報  
心  
乃  
為  
得

其  
也  
用  
每  
日  
得

其  
也  
用  
每  
日  
得

其  
也  
用  
每  
日  
得

其  
也  
用  
每  
日  
得

其  
也  
用  
每  
日  
得

其  
也  
用  
每  
日  
得

其  
也  
用  
每  
日  
得

其  
也  
用  
每  
日  
得



方觀古澤松

二名同海

年一古女

如何正南

此年一古

如



十月廿五日  
月

此の書は...

...

...

...

...

昨の例...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



此書を仙其の大夫中村日向義景の書牘と同僚片倉君小十郎村典の加筆して回信したるものを明治二十七年義景の曾孫中村宗三郎宜静より贈られたるものなり前書も村典義景の連署あるが此書を証金石とし前書の村典の筆をを證せむと此貼す

此書を仙其の大夫中村日向義景の書牘と同僚片倉君小十郎村典の加筆して回信したるものを明治二十七年義景の曾孫中村宗三郎宜静より贈られたるものなり前書も村典義景の連署あるが此書を証金石とし前書の村典の筆をを證せむと此貼す

周宗公を寛政八年三月二日子生れ令年齊宗公を同斗九月十五日子生れり周宗公文化六年十四歳を痘瘡にて逝せり藩主十七歳未満を逝せりを收封せりて制有り因て三年間喪を秘して文化九年齊宗公十七歳を及んで喪を發して繼立せり此間義景藩政に當り(其前文化三年四年魯人蝦夷地を掠むるに當り藩兵を生して守衛せるを)百事を處理して能く伊達の家を支持せりから柱石の臣を其書に亦珍重せざるなり

明治四十五年壬子七月二十七日

仙其遺臣大槻文彦謹書



岸... 政子當り(其前文化三年四年魯人蝦夷地を掠むる  
子當り藩兵を生して守衛せしむる)百事を處理して  
能く伊達の家を支持せりかゝ柱石の臣を其  
書と云ふ跡重を去り

明治四十五年壬子七月二十七日

仙臺遺臣大槻文彦謹書

